

しま・さと・まちの暮らし

Lifestyle

「このまち暮らし」
私たちが選んだ理由。

Although compact, Matsuyama City has many diverse features, with islands, villages, and towns. We highlighted people who were attracted to the charms of each area and are enjoying life in Matsuyama after moving back or relocating from urban centers.



のんびりとして
それでいて便利な離島



島の人たちのあたたかさ
感謝しながらのビール醸造

都会育ちの南雲さんは、「いずれは田舎に移住したい」と考えていた。「伯父が香川県の直島で暮らしており、瀬戸内の島って素敵だなと憧れを抱いていたんです」と振り返る。結婚後、妻の阿矢さんと移住フェアなどに参加し、本格的に候補地を選び始めた。そのなかでクローズアップされたのが愛媛県の島。「興居島のこともイベントで知りました」とはいえ当時は横浜市で飲食店を開業したばかり。移住はまだ先のことと考えていたのだが、そこに巻き起こったのが「コロナ禍」。先の見えない状況が南雲さんの背中を押してくれた。

やりたいことは決まっていた。それはクラフトビールの醸造所を開くこと。ビール造りをすれば、関東の飲食店仲間やお客さん、友人とも繋がれると考えたのだ。そして柑橘など島の特産品をビールづくりに生かすこともできる。

「興居島でいい物件を見つけて、空き家バンクに連絡をしたんです。色々話しているうちに『もっと広い物件があるよ』とここを紹介してくれました」。幼い子



がいるので、興居島にはドクターヘリのランデブーポイントがあること、フェリーの便数が多いことも安心材料となった。2022年1月からお試し移住施設「ハイムインゼルゴジしま」に腰を落し着け、開業準備を進めた。1年後に「GOGOSHIMA BEER FARM」を開くことができた。

「島の人がかく優しい。皆さんの応援がとても励みになっています」と顔をほころばせる。伊予柑や青蜜柑など島素材のクラフトビールも誕生した。摘果した柑橘なども使い、素材のロスを無くしてもいる南雲さん。これからも、島の人や風土を感じさせるビールづくりに取り組んでいく。

Profile

GOGOSHIMA BEER FARM

南雲 信希さん

Nobuki Nagumo



金・土・日曜と祝日にはタップルームをオープン。商品は松山市内の飲食店や酒店であつかつていて、オンライン販売も行っている



程よく都会で田舎
便利で気持ちのいい街

海岸までは
徒歩1分
ここは最高に
贅沢な場所

「好きな場所で、好きなことを仕事にしたい」と考えて国内外を旅した平野さん。「初めて足を踏み入れた松山市の印象がとても良くて、気づけば松山市民になり15年が過ぎました」と微笑む。現在は北条地区の海辺の古民家を自ら設計してリノベーション。暮らしに関わるデザインを生業としている。「松山の魅力は程よく都会で程よく田舎。シヨロピング街もアウトドアのフィールドも、何もかも

がちょうど良く収まっています」。また北条地区の便利さも平野さんのお気に入り。ちよつと朝早く出かければ、近くの駅から列車に乗り、1回だけ乗り換えたらランチタイムには彼女の美家のある東京に着くそう。しかも自宅から海岸までは徒歩1分。「飲み物を片手に夕日を眺めるひとは最高に贅沢です」と松山暮らしを楽しんでいる平野さんだ。



築50年以上の古民家をホームオフィスにして、パートナー&愛猫たちと穏やかに暮らしている。自宅の一部はゲストルームとして、移住希望者らに貸し出し



本と人をつなぎながら
松山らしい場づくり

「文学のまち」で
大好きなことを

「活字離れ」と言われ、インターネットシヨップの普及から、大型書店が減っている。「松山市は『文学のまち』。規模は小さくても、老若男女が活字に触れられる場を作りたいと思っただけです」と開業のきっかけを話す越智夫妻。大型書店では扱っていないリトルプレス、それも松山や四国にゆかりの作家やテーマのものも積極的に並べ、著者を招いたトークイベントなども積極的に開催している。また店内には、手芸家としても活躍している千代さんの作品、ちよつと目を引く雑貨なども並んでいる。「本だけじゃなく、人との

出会い、モノとの出会い。いろんな出会いの場であり、情報発信の場であり続けることが理想」と政尚さん。

近年、大型書店の閉店が相次ぐ中、この店のようないくつかの小さな書店（セレクト書店）は増えている。それだけに選書にはこだわっている。「市外の方が来店したとき、松山らしさを感じてもらえる場所のひとつになりたい」と話すふたりだ。



Profile

「水と木の間で」設計事務所 暮らしのデザイナー

平野 裕子さん

Yuko Hirano



お店の面積はわずか6坪。作家や写真家を招いたイベント開催時には、店内がぎゅうぎゅうになるほど賑わう。企画展も頻繁に行い、常に注目を集めている書店

Profile

本の轍

越智 政尚さん

Masanao Ochi

越智 千代さん

Chiyo Ochi

